

# 幼児教育第二世紀にむかつて

## —三つの提言—

山 村 ぎ よ



毎月の配本を心待ちにして目を通してゐる私は、十月号で根岸草笛さんの熱意あふれる文章を拝見して、私が常々考えていたことが文字になって嬉しく思っていた時、編集部から依頼をうけてとまどった。「どうにもならない幼稚園の難問題」を四、五枚の紙には書きようがない。けれど、どうしてもこれだけはすぐ手をつけられる、と思う三つのことをなんとしても皆さんにきいていただいた上で、解決の糸口をみつめて努力していただきたいと提言する。

○理論家と、実践家の結びつきをもっと密接に、かたく、快よく近めていただきたい。

昔とちがって多くの大学に保育科ができ、又新しく専門学校としての幼稚園教員養成機関が増したように思うこの頃、地元の、又はながくから幼稚園経営に当っておられる先生方が手を取りあって「本物の幼稚園とは」ということを実践していただきたい。現在もあちこちにこうした研究の集りはあるように思うが、何か、すっきりしないものを感じている。大学の先生方をもっともって利用させていただき、表面だけをさっと通るような研究でなく、もっと日本の子どもを中心にして、子どもの姿を追いかけてみる研究はできないものかと、附属幼稚園をもつ大学の先生方におねがいしたい。お座敷がかからねば幼稚園はのぞかぬの

か？ 現場の先生方が遠ざけているのか？ 個人的な問題をぬきにして現場の先生方に勇気をもっていたらきたい。今から三十年前位にはこうしたことが行われていたように思うが組合にわざわいされるのか？ 形式的ないろいろな問題があるのか？ はた又金銭上の問題？ 誰かが、どこかで勇気をもって解決の糸口をみつければいい。

○幼稚園長に自覚を持っていたらきたい。

公私立を問わず幼稚園長の辞令を手にしたからには本ものの園長になっていたらきたい。教職員の上に立って、園児のことも、保護者のことも真げんに相手をしていただきたい。「私は子どもことはわからぬから主任に」とおまかせの園長が多いことに驚く、諸外国の幼稚園にはこんな風景は見あたらない。園長の方針は文部省からうけとめた事をしっかりと教職員に実践を通してわからせている「陣頭指揮」は古くさいと思われる方もあるかと思うが、幼稚園の現場は、とくに若い先生方の中には子どもの生活の中にはまりこんでし

まい勝ちであるだけに、園長や教頭が名前ばかりではどうにもならない。経験年数の足りない若い先生方の勤務がながつづきしないのは、いろいろとむずかしい生活上の問題はあるとしても、自分の仕事を園長や教頭に認めてもらえるような、状態ならば何としても三年や五年の勤務はつづけられると思うのに……

成績のよい、やる気充分の卒業生が一、二年で現場を離れてゆく実情を知っているだけに、残念でならない。

○文部省は教員養成機関について最後まで指導し、現職教育を徹底して指導していただきたい。

現在は産みっぱなしのように思われる養成機関がずいぶん多いように思う。教育課程にしても、資格取得にしても、現在のままでは「よい先生」は現場に出てゆかぬと思う。

あちこちで耳にすることは「幼稚園を知っている先生がいない……」幼稚園教師にもいろいろと個人的な問題があると思うが、もっとも現場

教師の利用はできないものだろうか？ 幼稚園の現場に二十年以上もおられた方には、自分の実践してきたことを理論化し後輩の指導に役立つような指導をしてから養成機関に迎えてはくゞさらぬのか？ 勿論これには大いに個人的ないろいろな問題がからむこととは思うが何とか「現職教育」の別の方法を考えていただきたい。現在まで行なわれてきた指導者講座には、「出席したくてもさせてもらえぬ人」が多数おられることを考えていただきたい。そんな時にこそ地元の養成機関を利用させてほしい。

紙数に制限があるので三つのことの中でもまだまだ書き足りぬ部分は沢山あるが、私と同じような考えをもっておられる先生方がずいぶん多いと思うので、あととはご推察願いたい。

今年の一月号から読ませていただいた二世紀への提言はほんとうにもっともなことばかり、私のように五十年以上も幼稚園生活をしてきた者には

昔の、恵まれなかった幼稚園生活時代がひとしお懐しさを増す。脚光をあびた現在の幼稚園のいろいろな面での発展、その「発展」は子どもたちにとって幸いなことだろうか？ とつくづく考えさせられるこの頃である。

大変失礼なことばを数多くならべて申訳もございません。でも年よりの「たわごと」とは思わぬようおねがい申し上げます。

(聖徳学園教員養成所)

